

2019年9月27日

各 位

会社名 マックスバリュ西日本株式会社  
代表者名 代表取締役社長 平尾健一  
(コード番号 8287 東証第2部)  
問い合わせ先 取締役経営管理本部長 守岡幸三  
(電話：082-535-8494)  
当社の親会社 イオン株式会社  
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田元也  
(コード番号 8267 東証第1部)

## 業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社グループは、2019年4月10日に公表した2020年2月期第2四半期累計期間（2019年3月1日～2019年8月31日）の業績予想を修正するとともに、下記の通り特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

### 1. 2020年2月期第2四半期（累計）連結業績予想の修正

（百万円未満切捨て）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	274,300	3,100	3,200	1,500	28.57
今回修正予想 (B)	270,341	808	937	△136	△2.60
増減額 (B-A)	△3,958	△2,291	△2,262	△1,636	—
増減率 (%)	△1.4	△73.9	△70.7	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年2月期第2四半期)	138,361	1,169	1,326	824	31.43

## 2020年2月期第2四半期(累計)個別業績予想の修正

(百万円未満切捨て)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	134,500	1,500	1,600	850	16.19
今回修正予想 (B)	129,386	65	214	△54	△1.05
増減額 (B-A)	△5,113	△1,434	△1,385	△904	—
増減率 (%)	△3.8	△95.7	△86.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年2月期第2四半期)	138,228	1,259	1,414	816	31.12

## 2. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間において当社グループは、スーパーマーケットのみならず、ドラッグストアやコンビニエンスストア、またネット販売といった異業種を含めた厳しい競争環境のもと、デリカ部門を柱として、継続して需要が伸長している「即食」商品の開発や売場拡大、また、「お客さま感謝デー」、「火曜・水曜日」などの冠デーや週末の販売強化、販促面においては「WAONポイント」、「ときめきポイント」のポイントアップセールなどによる売上拡大に取り組みましたが、来店客数が伸び悩み、売上高、営業収益を大きく減少させる結果となりました。

主たる要因は、マックスバリュ西日本個別業績が大幅に悪化したことによるものであります。同社では2019年3月21日より、開店時や夕方のお買物ピーク時など、時間帯ごとにあるべき品揃えの見直し、その売場づくりの出来映え向上と店舗間格差の解消、オペレーション改善を主たる目的として、基本の営業時間をマックスバリュ店舗では9時から22時、ザ・ビッグ店舗は9時から21時に変更、短縮いたしました。開店から12時までは売場づくり、品揃えレベルも向上し、同時間帯の売上高既存比は98.8%、まで回復いたしましたが、夕方以降の売れ筋商品の売り込み不足や品切れなど、お客さまに対する不便を解消することができず、16時から19時の客数既存比は96.1%、19時以降は同94.1%と大きく落ち込み、個別売上高は前年から8,159百万円減少、同営業収益は8,892百万円減少する結果となりました。

利益面におきましては、低価格訴求や原料原価の高騰に対する値入率改善などの取り組み不足、また商品ロス(廃棄)の増加などにより、売上荒利益率が21.5%、計画から△0.5%の結果となり、売上高減少の影響も大きく、営業総利益高が計画から△2,474百万円の未達となりました。一方、販売費及び一般管理費は既存比99.2%とほぼ計画内に進捗管理できましたが、売上高、営業総利益の落ち込みをカバーするには至らず、個別営業利益並びに経常利益、四半期純利益は前回予想を大幅に下回る見通しとなりました。

また、同社の個別業績低迷に加えて、連結子会社である株式会社マルナカにおいてデリカ、鮮魚部門でのレジ値引及び廃棄の増加を主因として売上総利益が計画に対し低下したことにより、連結営業利益、同経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても前回予想を大きく下回る見通しとなったため、2020年2月期第2四半期連結業績予想及び個別業績予想を修正いたします。

### 3. 特別損失の計上及びその内容

#### ① 減損損失

当第2四半期連結会計期間におきまして、当社グループは「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産についての将来の回収可能性を検討した結果、店舗等に係る減損損失190百万円を計上いたします。

#### ② 退職給付制度改定損

当第2四半期連結会計期間におきまして、当社グループの連結子会社である株式会社マルナカ、株式会社山陽マルナカにおいて退職給付制度を確定拠出年金制度に移行したことに伴い、退職給付制度改定損742百万円を計上いたします。

#### ③ 固定資産除却損等

第2四半期連結会計期間におきまして、当社グループは店舗閉鎖等により固定資産除却損等50百万円を計上いたします。

科目	連結	個別	計
減損損失	156百万円	34百万円	190百万円
退職給付制度改定損	742百万円	一百万円	742百万円
固定資産除却損等	20百万円	30百万円	50百万円

なお、本件は、2019年4月10日に公表した2020年2月期第2四半期累計期間及び通期連結業績予想に織り込み済みです。

また、通期につきましては、2019年4月10日に開示した連結及び個別業績予想から変更はありません。

当第2四半期累計期間において大きく業績が低下したマックスバリュ西日本株式会社の個別業績回復を最重要課題とし、販売点数アップにこだわった売上高対策を柱として取り組んでまいります。具体的な取組みとしましては、①お客さまニーズに合った売場づくりの徹底（売れ筋、旬、小容量商品の品揃え、売場拡大）②「地域」に軸足を置いた品揃え・プロモーションを実現するための兵庫、岡山、四国、山口エリアの地区仕入機能強化。③特に兵庫エリアを重点対策エリアとし、付加価値型商品、地域商品を軸とした競争店対策の徹底。④店ごとに営業時間を再度見直し、一部店舗の再延長による営業機会の拡大。⑤16時以降のデリカ徹底強化。⑥重点日「お客さま感謝デー」「火・水曜日」「週末」の販売強化の継続などの諸施策を愚直に実行してまいります。また、定番商品の原価低減による値入率改善、販売及び製造計画の精度アップ、細かな売場管理の徹底による値下げと売り切り、廃棄削減などの取り組みによって荒利益率を改善するとともに、販売費及び一般管理費を継続して進捗管理していくことにより、早期の利益回復を実現してまいります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる場合があります。

以上